

未来へ繋ごう、地域の誇り

大切に受け継がれてきた
地域芸能を後世に残すため
取り組んでいます

沖縄は日本本土や中国、東南アジアの影響を受けつつ独自の芸能を作り上げてきました。宮廷芸能の組踊、民俗芸能のエイサーや民謡など、それぞれが各地域で大切に受け継がれていますが、過疎化や後継者不足の問題により、地域芸能の継承が難しくなっている地域もあります。那覇市では、地域芸能をたくさんの方に知ってもらうため、未来に残していくための活動として、「首里末吉町の獅子舞」や「泊地バーリー」など10の市指定無形民俗文化財を披露する公演を定期的に開催。先人たちから受け継いだ芸能を次世代へ継承する取り組みを続けています。



昔から大切に受け継いできた言葉や芸能、さまざまな文化は沖縄が誇る大切な宝です。未来に残し、次世代へ繋ぐための取り組みを紹介します。

しまくとうばって
どんなもの？

県内各地域で受け継がれてきた
沖縄文化の基となる
大切なことばです

県では、平成18年に「しまくとうばの日」を制定し、しまくとうば県民大会の開催や普及功労者の表彰、「しまくとうば普及センター」を中心としたしまくとうば講師養成やしまくとうば検定の実施など、しまくとうばの普及、継承のための取り組みを行っています。

那覇市文化協会は那覇市から委託を受け、うちな〜ぐちの普及・継承を図るため市民向け講座を開き、学習の成果を公演として発表しています。同協会



講座の様子



首里末吉町の獅子舞

(首里末吉町獅子舞保存会)



旧暦の8月15日前後の週末に開かれる十五夜祭で披露される獅子舞。小学生の参加者が進学などで辞めてしまうことがあり、次世代の育成が課題です。保存会では、子どもだけでなく父母や地域全体に興味を持ってもらうことで担い手の育成を目指します。

首里王府の路次楽

(首里王府 阿波連路次楽御座楽保存会)



牛ブラ、馬ブラと呼ばれる独自の楽器を用いるのが特徴で、保存会では残っていた記録、古い文献などからかつての宮廷音楽を再現。演者の高齢化の課題もありますが、路次楽を見た方に感動してもらい、参加したいと思わせる魅力的な活動を日々志しています。

「しまくとうば」は、沖縄県全体の方言(宮古・八重山も含む)「うちな〜ぐち」：沖縄本島中南部とその周辺離島の方言

「しまくとうば」は、沖繩県全体の方言(宮古・八重山も含む)「うちな〜ぐち」：沖縄本島中南部とその周辺離島の方言

「しまくとうば」は、沖繩県全体の方言(宮古・八重山も含む)「うちな〜ぐち」：沖縄本島中南部とその周辺離島の方言

那覇市文化協会
http://nahabunka.com/



成果公演では首里言葉の朗読劇「黄金の瓜種」と、那覇言葉の沖縄芝居「火正月の話」、二つの違いを比べた。子どもも大人も一緒になって取り組む講座は都市部ではなかなか得られない貴重な体験。

地域芸能を後世に残す取り組みを

那覇市伝統工芸館 野底 武光さん
(旧那覇市民会館文化事業企画担当)

地域芸能は、技術や音楽の素晴らしさはもちろん、込められた教訓など子どもたちの教育にも役立つものです。自分が住む地域の芸能を知ることは歴史を知ること。保存会の皆さんは郷土愛に溢れ、歴史ある芸能を絶やさないうように努力していらっしゃいます。新型コロナウイルスの影響でイベントや地域行事が中止になり、活動の場が奪われています。後継者不足に苦しむ地域も少なくありません。私はこの現状を伝えようと、演者の思いをドキュメンタリー風の動画にし、芸能祭の幕間などで上演しています。地域芸能を後世に残す努力は、今を生きる私たちみんなの役割です。



私にもできる



県立図書館の電子書籍利用

県立図書館では、電子書籍サービスに対応しており、約500冊の沖縄関連本も閲覧できます。家にいながらもスマホやタブレット、PCで、沖縄について学ぶことができます。まずは地域のことを知ることからはじめてみませんか？



県立図書館 電子書籍サービスのご案内

<https://www.library.pref.okinawa.jp/guide/cat9/post-27.html>

